

## 日本語の女性的終助詞に見られる女性性の定量的検証

— テレビドラマを対象に —

賈 伊明

本発表の目的は、日本語の終助詞のうち「女性的終助詞」とされてきた「かしら、のよ、のね、わよ、わね、(だ)わ、の」7つの終助詞の女性性を、テレビドラマ（以下「ドラマ」）を用いて定量的に明らかにすることである。

水本（2005）は、ドラマを対象に、10代後半から30代前半の女性の登場人物（計56人）が用いる女性的終助詞の使用頻度について分析し、女性的終助詞の使用頻度はいまだに高い傾向がみられるとしている。一方小林（2019:122）は、現代の大学生を描写する映画『何者』を対象に、7人の登場人物（男性4人、女性3人）のセリフを分析し、「エポック的作品」である『何者』においては、終助詞の使用は「中性化」している傾向がみられるとしている。

ドラマの世界においてどのようになっているのかを調べるために、本発表は、2012年～2019年に放送された、現代の日常生活を描くドラマ（6本、計33話、約24時間）を選んだ。日本語の標準語を話すことを条件として、合計65名の登場人物（男性28名、女性37名）のセリフを分析した。6本のドラマの脚本家は、女性1人、男性5人である。また、その年齢は40代前半から60代前半（1人は年齢未公表）である。合計17,097の発話文のデータが得られた。そして、7つの女性的終助詞のうち、「(だ)わ」と「の」は、イントネーションを考慮して分析した。得られたデータに対して、その表現を用いた人数と用いなかった人数を男女別にまとめ、フィッシャーの正確確率検定を行った。有意水準は5%とする。効果量も求めた。

結果は以下の通りである。

(1)「かしら」は、男女の使用に有意な差があるとは言えない ( $p = 0.065$ 、効果小)。しかし、この結果は、男女ともに使用例（男性0例、女性14例）が

少ないことと関係している可能性がある。

(2)「のよ」は、有意差があり、女性の使用は男性より有意に多いとわかった ( $p = 0.0003$ 、効果中)。そして、7つの終助詞のうち使用例数が2番目に多かった(男性11例、女性162例)。したがって、「のよ」は女性性のある終助詞(「女性のほうが多く用いる傾向がある」という意味。以下同様)であると判断できる。

(3)「のね」は、有意差があり、女性の使用は男性より有意に多いとわかった ( $p = 0.008$ 、効果中)。使用例数からみると、19例すべて女性の例であった。したがって、「のね」は女性性のある終助詞であると判断できる。

(4)「わよ」は、有意差があり、女性の使用は男性より有意に多いとわかった ( $p = 0.00002$ 、効果中)。使用例数からみると、72例すべて女性の例であった。また、40代以上の例が8割を占めている。「わよ」は女性性のある表現であり、中高年に偏っていると判断できる。

(5)「わね」は、有意差があり、女性の使用は男性より有意に多いとわかった ( $p = 0.016$ 、効果中)。そして、17例すべて女性の例であった。したがって、「わよ」は女性性のある表現であると判断できる。

(6)「(だ)わ」は、59個の使用例があった。疑問型上昇調が32例で、すべて女性(5人)が用いる例であった。そして、5人の女性の年齢や職業からみると、5人とも年配の女性、中流以上の主婦、知的職業のいずれかに該当する。また、検定の結果、有意差はなかった ( $p = 0.065$ 、効果小)。この結果は、男女ともに使用例が少ないことと関係していると考えられる。

(7)「の」は、806個の使用例があり、最も多かった。郡(2018:18)は、「の」は無音調、強調型上昇調、疑問型上昇調の3種類のイントネーション型と共起することができると述べている。806例のうち、無音調は265例であった。また、検定の結果、有意差があり ( $p = 0.046$ 、効果小)、女性の使用は男性より有意に多いとわかった。したがって、「の(無音調)」は女性性のある終助詞であると判断できる。

7つの終助詞のうち、女性の使用が男性より有意に多いのは5つであった。「かしら」と「(だ)わ」は、「死語」になりつつある傾向がみられる。小林(2019)は、フィクション作品のことばは「中性化」していると述べている

が、今回の調査の結果では、完全に「中性化」しているとは言えない。

### 【引用文献】

- 郡史郎 (2018) 「終助詞類のアクセントとイントネーション：『よ』『か』『の』『な』『でしょ(う)』『じゃない』, とびはね音調の『ない』」『言語文化共同研究プロジェクト』2017 : 13-26.
- 小林美恵子 (2019) 「映画『何者』にみる若者ことばの『中性化』」『ことば』40 : 106-123.
- 水本光美 (2005) 「テレビドラマにおける女性言葉とジェンダーフィルター：文末詞（終助詞）使用実態調査の中間報告より」『日本語とジェンダー』5 : 23-46.

(か いめい・名古屋大学大学院博士後期課程)